修学旅行新聞

発行所　財団法人 全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田2丁目8—7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。

従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要である教育界に課せられた義務でもある。

（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

修学旅行費の基準

無用時代を迎える

全修協調査

実際は倍もかかる　値上りに追いつかぬ

小中高校の修学旅行費に対して各都道府県教委ではどんな態度で臨んでいるか。基準を設けて指導している教委はしだいに減り、やがて廃止の方向をとりつつあるようだ。諸物価の高騰で、交通費、宿泊費など、とうてい基準に追いつかず、基準は現実はなれとなり、ひいては空文化する傾向にある。

全修協調査によると本年度、中学校に対して旅費の基準を設けている都道府県は二十六。このうち半数は内規でいど、全然設けていないもの十五、不明五となっている。基準のある府県の平均をみると一人五千九百円だが、協会の実態調査では学校納めの旅費の平均は一人八千二百円で、すでに二千三百円の不足。これに小遣いや仕度などの家庭における準備費平均五千五百五十円を加えると一万三千円に達する。

実例をみると新潟県は六千円でいどとなっているが、ある中学校は学校納め七千五百九十二円、富山県の一万円は一万三百円、静岡県七千円、五百円は七千九百円、和歌山県七千円が一万五百三十一円、兵庫県六千円は六千三百九十一円、佐賀県四千円は六千百二十四円、大分県六千円以内が七千八百四十円、熊本県三千五百円は七千八百三十八円、宮崎県五千四百円も実際は一万円で、ここも基準額を上回っている。

小学校に対して基準を設けているものは十六（このうち内規ていどのもの八）全然設けていないのは二十四にも達している。その基準平均は一人二千四百円四十円であるが、実際に学校へ納める費用の平均は三千六十円で、すでに六百二十円不足、さらに準備費として平均三千二百十円かかることもわかった。実例によると新潟県の二千円ていどが実際は二千八百円、愛知県の二千円も四千五百二十五円、大分県二千円は二千七百円、熊本県の千五百円は二千六百七円、鹿児島の一千円は二千六百円もかかった小学校があり、仕度費などを加えると相当額が父兄負担となっている。

そのため小中学校とも教委へは〝辻つま〟をあわせた報告書を提出しているところがあるといわれる。

これらの基準を来年度から改正しようとしているのが福岡、神奈川など、そのほか日程を短縮して実質的な低廉をねらう県もあるようだ。しかし物価上昇に加えて中高校の東海道新幹線利用などでウナギのぼりの傾向に、今後、旅行費の基準を設ける教委はしだいに減っていく気配をみせている。

論点

白紙に戻して検討を

渡辺敏郎

修学旅行の改善に関する声は全国的に高い。各都道府県教育委員会を中心に、その具体策が検討され、実施されつつあるので、いずれその効果が現われてくるものと考えられる。どのように改善されるかについては、その結果を見なければ判明しないところであるが、いずれにせよ、各学校が真剣にこの問題に取り組み、改善に努力するのでなければ、その実効は期待できないであろう。そうした点から改善に際して学校のとるべき態度について私見を述べてみたい。

㈠　改善策の検討は学校全体で行なう必要がある。

学校行事等のなかで修学旅行が大きな行事として重要視されている割合に、その計画などについては実施学年または一部の教師に任かされてはいないか。学校全体で検討したところで、形式的になかれている傾向があるのではなかろうか。したがって、改善策の検討についても同様の状態であるなら、その結果については大きな期待はできないであろう。学校の全組織をあげて、この問題に取り組み、衆知を集めて検討する必要がある。

㈡　抜本的に検討する必要がある。

修学旅行の改善策の検討は、修学旅行が欠くことのできない教育活動であるか、期待されている教育効果は、これ以外の方法で達成できないものであろうか。もし、修学旅行が実施されていない状態にまで立ち戻って検討を開始する必要がある。こうしてこそ、ねらい、効果、実施方法が有機的に結びつき、問題点を克服できる改善策が現われてくるであろう。

㈢　大きな決断が必要である。

親のなかには戦前的に旅行を頭から悪とする考えがまだ残っているし、教師のなかにも、修学旅行が実施されてから、いろいろな問題が生じ、その処理に苦労したことから、修学旅行に対して消極的な考えをもっている者もいる。

改善が決定したなら、過渡的には、入学当初から学校の考え方を周知し、教師とともに生徒・父兄の意識を改革する必要がある。

今日ほど教育問題が社会的に大きく取り上げられている時代はないであろう。教育制度、方法のみならず、その本質まで論議されている状態である。一方教科指導以外の領域における指導が従前以上に重視されていることも看過できない。教育改革の一つとして、また、教科以外の指導を重要視する具体的な歩みとして、修学旅行の改善策を巨視的な立場で検討されることを望んでやまない。（北海道旭川商業高校教頭）

全修協だより

▼九州地区＝十月十九、二十日福岡市・那の津荘▽中・四国地区＝広島市・せとうち苑▽東海・北陸地区＝十月二十三、二十四日岐阜市・石並▽北海道・東北地区＝十月二十九、三十日仙台市・自然荘▽関東地区＝十一月五、六日箱根・日光国際ホテル。

▼全修協の本年度地区協議会はつぎの通り開催。おもな議題は「修学旅行の改善」「来年度の研修旅行」などで、地区協議会長、各都道府県支部長、関係教育機関本部から山本理事長も出席する予定。

▼高田治部氏（理事・北海道支部長）札幌市南二十五条西十四丁目へ帳居。

風紋

「百聞は一見にしかず」といういい古されたことばは、常に新しい意味をもち「旅」という形をとって人間の歴史をつらぬいて生きている。「人」が地球にうまれた時から「人」の旅ははじまった。椎の葉に食をもった古人も、西域や西行なども、そして数多くの人々は数多くの旅をつみ重ねて人間史をつくってきた▼こんどの日本万国博へ百八十三日間に六千四百二十二万人が「百聞は一見にしかず」と、その文字どおりの「一見」のために、「旅」をした。この異常ともいえる現象を冷笑する声もあるが、この事実の奥深くひそむ人間の本性を正しくとらえなければならない▼テレビがこのように普及したから、万国博にわざわざ金と時間をかけていく人は少ないであろうという予想はまったく間違っていたことになる。マスコミがどのように発達し、映像、音声、活字による伝達機能がどのようにひろがっても、人間は自分の肌で自らの目で確かめなければならないもので、これが人類が限りなく進歩する原動力であるのだ▼黒川紀章氏は、〝よなら万国博の夜「テレビへの大衆の反逆」という表現でこの現象を説わしたが、いみのあるいい方で面白いと思った。三重県では同県の青少年に世界を肌で感じとらせようと、万博教育推進協議会という善県体制をつくり、無事故十万人の見学を具体的に行なった▼抽象的なお説教の教育論議でなく、十万人の青少年の魂の奥底に映された「世界」を具体的に事実として持たせたことは、何物にかえがたい成果とたかく評価される。三重県教育委員会が積極的に民間の関係機関と、進歩的に協力体制をもりあげたのは成功の大きい理由としてあげられる▼進歩と調和の理念は、こういう形でも生かされた。これは、これからのいろいろの教育運動にとっての一つの教訓でもあったといえよう。

ほなやかに解散式

万博へ10万人動員

三重県万博推進委で

ことしの万国博見学を教育的に実施しようと三重県では全教育界が挙って参画、ついに十万人動員に成功したが、十月六日、津駅ビル内で計画実施にあたった三重県万博教育推進協議会の解散式を行なった。

この協議会は全修協三重県支部が中心となって設置を進め、昨年九月十日、会長に西山文男全修協県支部長、同事務局長に藤森健全修協県支部事務局長（県教委福利課長補佐）両氏が就任して発足し、学校代表、輸送機関が一体となって推進した結果、このような大成功をおさめることができたのは担当者としてうれしい。とくに県教委と校長会の献身的な努力は忘れることができない。小学校二百七十五校二万二千三百二十八名、中学校八十七校五万四千六百三十三名、高校二十八校二万二千七百九十名、母と子千二百二組二千五百三十名で予想をはるかに上回わった。児童生徒に代って深くお礼を述べたい」と挨拶した。

全修協山本理事長は「西山会長藤森事務局長、故武藤職員や県教委、教育関係者、輸送担当者の方々に対し深く感謝の言葉を捧げたい。実際のところはじめは五里霧中で、しかも大きな責任ある仕事なので戸惑ったが、会長、事務局長らの文字通りの努力と、県教委を中心とする教育界のバックアップ、さらに経済面と輸送面から近鉄、三重交通、近畿日本ツーリスト各社の協力で大成功をみたことは感謝のほかはない。今後はこの総和による成果、教育の進歩を県の美風伝統としていただきたい」とのべた。

米倉の県教委教育次長宮本二三氏は「県教育の発展に理解と協力を賜わったことを感謝する」と述べ、校長会長は「多くの子どもたちを安全に見学させることについて学校側は苦慮したが、全修協の力でみごとに成功したことはすばらしい」と語り、また、PTA会長は「協議会にすべてを一任したが、一つの事故もなく十万人が万博へ行けたことはうれしい」と感謝の意を表した。そのほか輸送業務にあたった近鉄、三重交通、近畿日本ツーリストの各代表からも祝辞がおくられ、はなやかな閉会式だった。

その後、推進委員による視地調査、運輸関係者との協議を重ねるとともに教育的見地からの指導について県教委とも連絡をとりながら募集を開始した。各学校では学校行事として予定を組み、校長会PTAも協力、ついに予定の十万名を突破し、十万一千二百八十名に達する好成績をおさめた。

解散式は県教委教育次長宮本一二氏をはじめ指導課長、指導主事四組総括課長、小中高校長、PTA代表、県公立学校職員互助会事務局長松井政治郎、県修学旅行研究会事務局長伊藤正也、近畿日本ツーリスト中部営業部長野口泰、同津営業所長北山芳紀氏のほか全修協山本理事長、同白滝事務局長も出席した。

西山推進協会長は「万国博を教育的に受けとめ県内の青少年子弟多数に安全有効にその機会を持たせたいと念願した。それには統轄して行なうことが最善の方法と考え、全修協を中心に県教委、万博推進委員会、学校代表、輸送機関が一体となって推進した結果、このような大成功をおさめることができたのは担当者としてうれしい。とくに県教委と校長会の献身的な努力は忘れることができない。小学校二百七十五校二万二千三百二十八名、中学校八十七校五万四千六百三十三名、高校二十八校二万二千七百九十名、母と子千二百二組二千五百三十名で予想をはるかに上回わった。児童生徒に代って深くお礼を述べたい」と挨拶した。

全修協山本理事長は「西山会長藤森事務局長、故武藤職員や県教委、教育関係者、輸送担当者の方々に対し深く感謝の言葉を捧げたい。実際のところはじめは五里霧中で、しかも大きな責任ある仕事なので戸惑ったが、会長、事務局長らの文字通りの努力と、県教委を中心とする教育界のバックアップ、さらに経済面と輸送面から近鉄、三重交通、近畿日本ツーリスト各社の協力で大成功をみたことは感謝のほかはない。今後はこの総和による成果、教育の進歩を県の美風伝統としていただきたい」とのべた。

米倉の県教委教育次長宮本二三氏は「県教育の発展に理解と協力を賜わったことを感謝する」と述べ、校長会長は「多くの子どもたちを安全に見学させることについて学校側は苦慮したが、全修協の力でみごとに成功したことはすばらしい」と語り、また、PTA会長は「協議会にすべてを一任したが、一つの事故もなく十万人が万博へ行けたことはうれしい」と感謝の意を表した。そのほか輸送業務にあたった近鉄、三重交通、近畿日本ツーリストの各代表からも祝辞がおくられ、はなやかな閉会式だった。

充実した修学旅行

ツーリストをお役立てください

ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として"修学旅行映画"シリーズを製作しております。

●修学旅行映画シリーズ

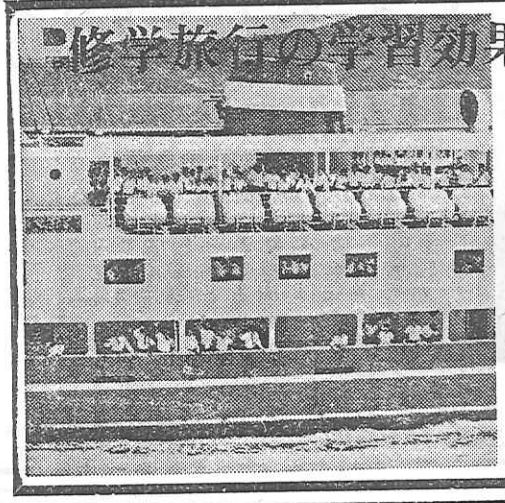
奈良　京都　京都の庭園　富士箱根　日光
大和の国なか　大和の塔　火とみどりの国
瀬戸内海　みちのく　大和の道　大和の石

（いずれも文部省選定、16ミリカラー、上映時間25～40分です）

電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」

近畿日本ツーリスト

修学旅行の学習効果向上のために



全船冷暖房完備の修学旅行専用船

わかば丸・ふたば丸

旅客定員805名・1,100トン

●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます

楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！

関西汽船

●お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

新幹線の修学旅行

国鉄・旅客局営業課長補佐　百瀬　茂

近畿は10月11日から

46年秋季の輸送計画

10月1日には関東地区

A、近畿地区中学連合【往路】三九四A（こだま）新大阪発八・五〇、東京着一三・〇〇（十月十一日―同十五日）【復路】三九五A（こだま）東京発一四・一五、新大阪着一八・二五（十月十三日―同十七日）‖以上五日、一日当り九百二十七名　総人員四千六百三十三名

A、関東地区中学連合【往路】三九三A（こだま）東京発一一・一五、新大阪着一五・二五（十月一、二日）【復路】三〇六A（ひかり）新大阪発一二・四五、東京着一五・五五（十月四、五日）‖以上二日一日当り六百三名、総人員千二百五名。

B、北海道高校連合【往路】九一A（ひかり）東京発七・二〇、新大阪着一〇・三〇（九月二十五日―十月六日、十月十二日―十一月十一日）【復路】一六A（ひかり）新大阪発八・二五、東京着一一・三五（九月二十七日―十月九日、十月十四日―十一月十四日）‖四十九日。▼五〇A（ひかり）新大阪発一四・〇五、東京着一七・一五（九月十九日―同二十八日）‖十〇（九月二十六日―十月一日）【復路】三九二A（こだま）新大阪発一九・一〇（十月一日―同十五日）‖以上五日、一日当り五百名、総人員二千五百名。

B、東北高校連合（青森、秋田県）【往路】三〇三A（ひかり）東京発一〇・四〇、新大阪着一三・五〇（十月十四日―同二十三日）【復路】六二A（ひかり）新大阪発一六・〇五、東京着一九・一五（十月十九日―十月二十九日）‖以上十日、一日当り五百名、総人員五千名。

B、和歌山中学連合【往路】三六〇A（こだま）新大阪発一〇・三五、東京着一四・四五（十一月四日―同十日）▼六一〇四M大阪発一〇・一五、東京着六・〇五（十一月四日―同十日）【復路】六一〇七K東京発二一・二〇、大阪着六・四三（明石着七・五二）（十一月六日―同十二日）▼三九三A（こだま）東京発一一・一五、新大阪着一五・二五（十一月七日―同十二日）‖以上七日、一日当り八百五十七名、総人員一万二千名。

B、九州高校連合【往路】七A（ひかり）東京発七・〇〇、新大阪着一〇・一〇（十月二十五日―同二十九日）【復路】三九六A（こだま）新大阪発一四・五〇、東京着一九・〇〇（十月三十日―十一月三日）‖以上五日、一日当り五百名、総人員二千五百名。

B、東北高校連合（青森、秋田県）【往路】三〇三A（ひかり）東京発一〇・四〇、新大阪着一三・五〇（十月十四日―同二十三日）【復路】六二A（ひかり）新大阪発一六・〇五、東京着一九・一五（十月十九日―十月二十九日）‖以上十日、一日当り五百名、総人員五千名。

B、和歌山中学連合【往路】三六〇A（こだま）新大阪発一〇・三五、東京着一四・四五（十一月四日―同十日）▼六一〇四M大阪発一〇・一五、東京着六・〇五（十一月四日―同十日）【復路】三〇六A（ひかり）新大阪発一二・四五、東京着一五・五五（十月四、五日）‖以上二日一日当り六百三名、総人員千二百五名。

B、北海道高校連合【往路】九一A（ひかり）東京発七・二〇、新大阪着一〇・三〇（九月二十五日―十月六日、十月十二日―十一月十一日）【復路】一六A（ひかり）新大阪発八・二五、東京着一一・三五（九月二十七日―十月九日、十月十四日―十一月十四日）‖四十九日。▼五〇A（ひかり）新大阪発一四・〇五、東京着一七・一五（九月十九日―同二十八日）‖十〇（九月二十六日―十月一日）【復路】三九二A（こだま）新大阪発一九・一〇（九月二十六日―十月一日）‖以上八日、一日当り四百三十二名、総人員三千名。

B、東北高校連合（岩手・宮城県）【往路】六七A（ひかり）東京発一七・〇〇、新大阪着二〇・一〇（十月二日―同九日）【復路】三八二A（こだま）新大阪発一七・三五、東京着二二・四五（十月七日―同十四日）‖以上八日、一日当り五百名、総人員四千名。

B、東北高校連合（宮城・福島県）【往路】三〇九A（ひかり）東京発一四・二〇、新大阪着一七・三〇（十月十一日―同二十四日）【復路】三九四A（こだま）新大阪発八・五〇、東京着一三・〇〇（十月十六日―同二十九日）‖以上十四日、一日当り五百名、総人員七千名。

B、東北高校連合（秋田県）【往路】七A（ひかり）東京発七・〇〇、新大阪着一〇・一〇（十月二十五日―同二十九日）【復路】三九六A（こだま）新大阪発八